

J-KIDS 大賞 2004 県代表選考評定指標(詳細解説)

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 豊福晋平
平成16年8月25日

1. この選考評定指標解説について

本稿は各学校のホームページ運営者、自治体教育委員会関係者、研究者、あるいは複数の学校比較調査を意図される方を対象に、各学校ホームページの特徴や傾向を分析するために、必要とされる評定指標と、調査結果に基づく統計データ・フィードバック情報をまとめたものです。

2章では、J-KIDS 大賞のねらいや評定指標の構造についての解説があります。

3章では、特に自己採点を目的として利用される方への補足説明を掲載してあります。

4章では、選考評定指標の詳細条件・評定結果について解説しています。

5章では、各セル(カテゴリ)ごとのスコア分布、軸別平均の傾向、総合点の分布傾向などを解説しています。

まず、この評定指標を利用するにあたって、3章までの説明をご覧になり、J-KIDS 大賞に関する背景とコンセプトについてご理解頂きたいと思います。

つぎに、4章と2004年J-KIDS大賞評定指標(詳細票)を用いて対象ホームページを自己採点します。今年度は指標の構造化を行ったことにより、若干加点ルールが複雑になっていますので、採点時は専用の excel ワークシートを用いると面倒がないでしょう。

採点結果をもとに、各評定項目や尺度、総合計の分布図、パーセンタイル等の情報から、おおよその位置を割り出すことができます。また、全体を俯瞰してみれば、全体平均と比べて、どの部分が強いかわかるいは弱いかを判断することができます。

1.1. 分析にあたっての留意点

- 2章以降は、社会人ボランティアが実際に用いた選考評定指標に加筆したものです。選考作業は専用の選考ポータルサイトで行うため、excel のワークシートとは若干表示や説明に相違があります。
- 選考評定指標で用いているポイント加算ルールは、あくまでホームページの分析把握を目的として仮に設定したものです。実際の県代表選考で用いた加算ルール(重み付け)と一致することを示すものではありません。
- J-KIDS 大賞前半の県代表選考は客観評定指標を用いて行われますが、後半の全国大会は各選考委員が独自の選考基準をもとに賞候補を推薦します。したがって、全国大会では評定指標のスコアによって受賞が確定するわけではありません。
- 選考評定指標は、学校ホームページの動向を読みながら、毎年項目や配点に変更が生じます。したがって、前年度の評定スコアが高いことは、必ずしも次年度の入賞を意味するものではありません。

- 選考評価指標は多様な学校ホームページの個性を網羅的に把握するため、多軸多項目で構成されています。運営側の考えによって望まれるホームページの姿は様々ですから、運営側ポリシーと評価指標の意図はしばしば一致しないことがあります。
- ホームページの理想はひとつではありません。選考評価指標は自治体の作るガイドラインとは設計思想が違いますので、全て満足させようと欲張ることはあまり意味がありません。学校ホームページの個性や方向性を認識したうえで、現状必要と感じ、かつ足りないと判断される部分について、まずは手の届く範囲から補強を行うのが望ましい使い方といえるでしょう。
- J-KIDS 大賞 2005 に向けて、客観評価指標はさらに改良を続けていきます。指標として、取り上げるのが望ましい項目、条件設定について建設的なご意見をお待ちしております。詳細は i-learn.jp、または管理人(info@i-learn.jp)までメールでお問い合わせください。

2. J-KIDS 大賞 2004 県代表選考について

全日本小学校ホームページ大賞(J-KIDS 大賞)は、客観的評価指標を用いた全国の小学校ホームページの悉皆調査をもとに、各都道府県代表校および優秀校を選定するユニークな方法をとっています。2004年も、4月より第2回(J-KIDS大賞2004)の選考が開始され、7月の選考結果決定まで、のべ1000名以上の方々のご協力を得て作業を進めてきました。

国際大学グローバル・コミュニケーション・センターの運営する [i-learn.jp](http://www.i-learn.jp) サイト(<http://www.i-learn.jp>)は、この悉皆調査の実施にあたり、大会実行委員会事務局(株式会社損害保険ジャパン)に全面的に協力しており、今年度も評価指標の策定、学校 URL 情報、評価情報集約センター機能等を提供しています。

2.1. 選考過程の概要

J-KIDS 大賞 2004 の県代表選考は、大賞選考の前半にあたり、全国約1万5千校分の対象を50にまで絞り込むプロセスです。

i-learn.jp が収集した学校 URL 情報に基づき、全国の小学校、小学部をもつ併設校、私立学校、特殊教育諸学校、海外日本人学校等、15039校(前年度は12180校)を対象として、2004年5月から6月にかけての約2ヶ月間ホームページの悉皆調査を行いました(一次評価)。

これは客観評価指標をもとに各学校のスコアを採点するものです。評価作業には大会実行委員会事務局のほか、社会人ボランティアの方々1077名の参加を得る事ができました。今年度はとくに評価品質を向上させるため、3つの必須条件による評価打ち切り、より厳格な基準とともに、可能な限り異なる評価者によるダブルチェックを目標としました。

つぎに、6月下旬から7月まで、大会実行委員会事務局スタッフを中心として、再度スコアのチ

チェックと見直しを行い、都道府県および特殊教育諸学校、Newホームページ(開設から1年以内のホームページを対象)の50カテゴリごとのスコア総合計点ランキングをもとに、それぞれ代表校1校と、優秀校9校候補を決定しました(二次評定)。

2.2. J-KIDS 大賞のねがい

J-KIDS 大賞は、特に子供達の生活と密接に関係する学校ホームページの役割に注目し、その総合的評価と支援を目的として創案されたものです。

情報社会における学校とは、いいかえれば、日々膨大な知識や思念が行き交う情報拠点に他なりません。それぞれの学校が独自の教育活動を多様に展開し、児童生徒・保護者そして地域社会から活動に対する理解と支持を獲得し続けるために、これら情報拠点は広く社会に対してひらかれることが求められており、情報発信手段としてのホームページの位置づけは、今後一段と重要になるものと予想されます。

私達が考えた理想の学校ホームページとは、「子供達や保護者の生活や意識とともにあり、日々蓄積と相互作用を繰り返し、長きにわたって継承されてゆくページ」というものです。たとえ派手で目立つ内容はなくても、地道に活動運営に取り組むことで、いつしか年輪のように刻まれた軌跡から、学校や子供達の雰囲気そのままうかがえるようなページ作りを応援したい、人知れず頑張っている作り手に精一杯のエールを送りたいとの願いが込められています。

2.3. 県代表選考(悉皆調査)のコンセプト

J-KIDS 大賞の悉皆調査では、普段運用されている学校ホームページのありのままの姿を、総体として評価することが非常に重要なポイントとなります。

たとえば、コンテストのために特別なコンテンツを作り込む必要があったり、審査のために一時内容更新を抑制したり、あるいは、ホームページのある一部分のみを切り出して審査するのでは、運営者に余計な負担をかけてしまうばかりか、情報更新の柔軟さを最大のウリにするホームページ本来の価値を失ってしまいます。これでは大会の趣旨に合いません。そこで、日常そのままのホームページをありのまま捉えるための工夫として、「特に選考審査にあたって応募を必要としない」「評定者が公開情報のみを閲覧し評定を行う」勝手選考方式をとることになりました。

地域や学校、あるいは学校管理者や運営者によってさまざまな考え方があり、学校ホームページの目的や表し方もまた多様です。ホームページは多様な利用者を対象とするもの、という立場にたてば、誰かにとって「望ましい」ホームページ像は存在しても、唯一絶対の「正しい」ホームページ像はありません。このため、J-KIDS 大賞では学校ホームページの個性をできるだけ網羅的に把握できるような項目構成を目指しています。

2.4. ホームページの課題に対する考え方

J-KIDS 大賞の選考評定指標には、一部自治体等の示すガイドラインとは一見矛盾する項目が含まれています。肖像権やプライバシー、防犯安全等はいずれもホームページの制作上無視できない課題ですが、これら課題に過剰対応すれば、学校ホームページの意義や制作への動機付けを大きく損なうことは明白です。様々な批判は承知のうえで、あえて今年はリスクのある項目を残すことにしました。なぜなら、これら課題に対する答えは一つでない、というのが私の見解だからです。

保護者や地域の側の要望や評価は、かならずしも教育業界内部の価値観とは一致しないものですし、世間の影響を受けやすく、うつろいやすいものでもあります。保護者の多くは、自分の子供の様子は知りたいと願う一方で、他者への情報公開には慎重になる傾向があります。

しかしながら、地域の学校は在校生保護者のみに奉仕する機関ではありません。数多くの同僚、卒業生や地域の人々、潜在的関係可能性を持つ人々のつながりや支えがあって教育は成立するものと考えれば、学校からの情報発信に社会的拠点としての意義を問うこともまた必要です。

重要なことは、学校ホームページの意義は、それらを取り巻く課題と積極的メリットとの微妙なバランスの上に成立し、かつ、このバランスは個々の学校と保護者・地域との信頼関係のありかたに大きく依存するということです。これは IT 以前の学校経営そのものの問題です。

事実、子供達の写真を掲載しても摩擦が生じない学校もあれば、自治体の厳しいガイドラインをクリアしつつも様子を伝えるために努力をしている学校もあります。一方で、保護者との信頼関係が十分構築されていないがために、児童の様子をほとんど伝えられない学校もあるでしょう。それぞれは、個々の学校の経営方針や周囲との相互関係によって結論されるべきことであって、十把一絡げの表面的かつ粗雑な議論は何も建設的な結果をもたらしません。

では、「児童の様子が伝えられなければ、学校ホームページは成り立たないのか」といえば、それも違うと私は思います。指標を多軸構成しているのは、先に述べたように「答えはひとつではない」ことを前提にしているからです。規制や困難があれば、それを乗り越えるヒントはどこかにあるものです。代表校に選出された学校は、それぞれ学校ホームページの魅力を個性的に表現していますから、ホームページのありかたを考える上ではよいモデルになるでしょう。そのような意味で、学校ホームページの何らかの可能性を見出す機会にしてほしいと、私は考えています。

2.5. 学校ホームページの3つの要素

J-KIDS 大賞の企画立案にあたって、2004の評定指標の背骨となる重要な要素が3つあります。

一つ目の要素は利用対象者です。学校ホームページの利用者として規定されるのは、次の通り、直接的な対象と間接的・潜在的な対象があります。

:学校と直接的関係がある対象

在校生の保護者、 在学児童生徒本人、 在職中の学校関係者、
自治体教育委員会・行政関係者

:学校と間接的関係もしくは潜在的関係可能性がある対象

学校への転入学を検討している保護者、 在学児童生徒の家族(保護者以外)、
元在校生(卒業生・転出者)・元在勤者、 他校の児童生徒・教育関係者・研究者、
地域市民・協力者、 一般社会人

は、学校側と何らかの直接的関係があり、ホームページを設ければ必然的に意識せざるを得ない対象です。特に、学校運営に外部評価の枠組みを取り入れる動きがあることから、保護者のステークホルダー(意思決定決定権者)としての側面が注目されつつあります。

は、潜在的な関係可能性ゆえに学校ホームページの利用者としては見落とされやすい対象です。これらの利用者を無視するか意識するかによって、サイト構成や内容も大きく変わってきます。J-KIDS 大賞は公開情報のみを頼りに評定を行う関係上、こちらの側面も重要視しています。

二つ目の要素は目的です。学校ホームページの目的は大雑把に分けると、

新聞としての目的(広報・連絡・アカウントビリティ)

人々をつなぐ目的(地域拠点・情報拠点・活動拠点)

アーカイヴ・ミュージアムとしての目的(情報蓄積)

の3つがあります。

が目指すのは、学校の活動が社会に対して透明になることです。

学校側が学校運営方針を明らかにし、日頃の活動を詳細に情報提供することは、学校への漠然とした不信感を払拭するとともに、教育活動全般に対する参加意識を高めることにもつながります。

が目指すのは、学校が地域社会のネットワーク・ノードになることです。

学校を中心として、卒業生や地域の人々など「緩やかな人のつながり」を日常的に作っておけば、様々な人が協力してボトムアップ的にイベントや授業を立ち上げていくことができるようになります。

が目指すのは、長い目で見て学校が記憶や思い出のよりどころとなることです。

児童生徒ひとりひとりが残した作品や活動の記録をデジタルで残すことで、本人達にとっては、いつでも母校を振り返ることができ、同時に地域にとってもかけがえのない歴史の軌跡となるわけです。

三つ目の要素は内容の適用範囲です。学校ホームページが扱う内容と主に関わる人々について区別すると、

組織情報(学校組織運営に関わる情報、学校管理者・教職員・上部組織)

教育活動(正課の教育活動に関わる情報、授業者と学習者(児童))

学校生活(学校生活全般に関わる情報、保護者・地域等、多様な参加者)

の3つがあります。

は学校要覧にも掲載されるような基礎的情報に限られますが、
、 となるにつれ、範囲が
広がるので、多様な利用者を前提として情報も多面的になります。

2.6. J-KIDS2004 評定指標の構造化

昨年度の場合は、カテゴリ別に項目が構成されていたものの、カテゴリごとの項目数と合計ポイントがまちまちであったため、カテゴリ間の比較が難しく、あるいは、評価条件に一部曖昧な記述があったために、評定者の主観によって採点にばらつきを生じやすいという課題がありました。

J-KIDS2004 評定指標の大きな特徴は、指標の構造化と採点基準の厳密化にあります。

図の通り、3×3のマトリクス+1の全10カテゴリを設け、評定を行います。マトリクスの縦軸には3つの目的、横軸には3つの適用範囲が配置され、さらにこれら全体を支える仕掛けとしての機能が独立して設けられています。各セルの仮合計ポイントは10ポイント(「機能 F」セルに限り7ポイント)で、大半は1ポイントごとに客観的加点条件が設けられ、評定者による採点のばらつきを極力抑えるように工夫してあります。合計評点は理論上0～97点に分布することになります。

J-KIDS大賞2004 選考基準マトリクス(概要)		組織 Organization 学校組織に関わる情報 管理職・教職員・上位組織	教育活動 Teaching & Learning 正課教育活動に関わる情報 授業者と学習者	学校生活 School Life 学校生活全般に関わる情報 保護者・地域等多様な参加者
広報説明 Public Relations	「つたえる」 企画・計画・ルール・情報開示	OP	TP	SP
参加協働・拠点 Collaboration	「かかわる・ひろげる」 参画・組織構成・活動展開 告知・拠点・フィードバック	OC	TC	SC
蓄積 Archive	「まとめる・のこす」 記録・成果・蓄積・継承	OA	TA	SA
機能 Functions	「はたらき・しかけ」 機能・技術・更新実績	F		

2.7. 必須条件と評定打ち切り

先の構造化により、学校ホームページの評定は構造的かつ詳細になりましたが、結果的に指標数が増加したことから、1校当たりの作業量・所要時間もまた増えてまいります。J-KIDS 大賞・県代表選考は約 1 万5千件の対象(実際はダブルチェックなので倍の3万件)に比べ、期間はわずか2ヶ月、評定参加ボランティアの総数が約千名とかなり厳しい状況にあるため、本当に見るべきホームページをしっかりと見るために、やむなく今年度は必須条件による評定打ち切りを設けました。

昨年度の J-KIDS 大賞の調査統計結果と各学校の更新実績を分析し、約半数を打ち切り条件

で振り落とします。年度当初からアナウンスしていたように、次の3点が必須条件となります。

公立学校の場合、自治体名を含む学校正式名称がトップページに記載されていること
サイト内のどこかに学校の所在地住所と電話番号両方の記載があること(通常はトップページにおくものです)

最終更新日が2003年9月30日以降であること(約半年)

以上3点すべてを満足しない場合は、残りの項目評定はせず「評定打ち切り」扱いとなります。

2.8. 評定上の留意点

選考評定についてはポイントがいくつかあります。

- 枠だけ設けられていて、実際には内容が空である場合は「ないもの」として判断します。
ページはつくったけれど中身がないケースはままあります。外枠はどんなに立派でも中身がなければ意味がありません。
- 素朴なデザインは大目にみます。
学校ホームページにデザイナーが付くのは私立学校だけです。サイト全体のデザインや構成は素人が行っているケースが圧倒的に多いので、奇抜な配色やデザインセンスだけに注目しすぎると、他の要素を見誤ることがあります。むしろ、凝りすぎ独りよがりのデザインでは意外に使い勝手が良くないものです。
- 学校が誰に対してアピールしようとしているかの確に把握する必要があります。
学校サイトを見慣れてくると、最初の数ページだけで誰を相手にしようとしているか、なんとなく分かるようになります。多様な利用者を全体に構成されたページは、誰に対しても温かく迎え入れる姿勢が貫かれています。ユーザーのことをこれっぽっちも考えていないページは、一見して不愉快な雰囲気を感じさせるものです。

3. 自己採点用補足資料

3.1. 県代表校選考のプロセスデータを参照する

J-KIDS 大賞 2004 の選考対象となっている学校の担当者に限り、i-learn.jp の学校詳細情報内にある「J-KIDS 選考情報」にて、自校の ボランティア選考者の情報、 ボランティアからのコメント、 選考評定期間中に投票されたアピール票数(「みてみて」)、 ボランティア向けに記入したコメントが参照できます。

ただし、この機能を利用するには i-learn.jp に学校ホームページ運用者としてのユーザー登録が必要です。詳細は <http://www.i-learn.jp/schools/user.asp> を参照してください。

3.2. excel シートの利用方法

J-KIDS 大賞県代表校選考の実際は、i-learn.jp 上に設けられた選考ポータルサイトを用いて行いますが、今回は各評定指標とセルへの加点条件がやや複雑なので、Excel のワークシートを用いた集計を行う方が簡単です。

自己採点を行うには、「評定表」ワークシートのグレーの該当箇所に点数を記入します。



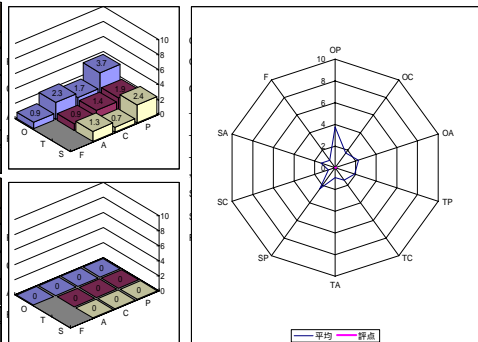
評定指標すべての採点が終わったら、「結果マトリクス」ワークシートを開きます。

「評定表」の採点結果がマトリクスに反映され、どのセルにどの程度のポイントがあるか確認することができます。

Category	Organization	Teaching/Learning	School Life	Total
Public Relations (Public Relations)	0	0	0	0
Collaboration (Collaboration)	0	0	0	0
Archive (Archive)	0	0	0	0
Functions (Functions)	0	0	0	0

さらに「結果統計」のワークシートを開くと各セルの平均と採点スコアおよび偏差値による相対的位置が把握できます。

J-KIDS大賞2004 選考マトリクス統計 (全県平均)	組織 Organization		教育活動 Teaching & Learning				学校生活 School Life		計			
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
広報関係 Public Relations	OP	3.731	1.108	TP	1.886	1.235	SP	2.413	1.861	P	8.030	3.157
参加協働・拠点 Collaboration	OC	1.683	1.383	TC	1.415	1.476	SC	0.654	1.132	C	3.752	3.056
蓄積 Archive	OA	2.261	1.452	TA	0.901	1.522	SA	1.350	1.551	A	4.512	3.516
計	O	7.675	3.044	T	4.202	3.472	S	4.417	3.591			
機能 Functions	F	0.854	1.145							総合	17.665	9.158



J-KIDS 大賞 2004 県代表選考評定指標(詳細解説)

(注意)選考評定指標で用いているポイント加算ルールは、あくまでホームページの分析把握を目的として仮に設定したものです。実際の県代表選考で用いた加算ルール(重み付け)と一致することを示すものではありません。

4. 県代表選考評定指標の解説

4.1. # 1 必須項目の確認(01～02)の評定

01～02の項目は、学校ホームページを選考評定する上では、最初でしかも重要なポイントとなる情報が含まれています。必須項目の条件しだいで、評定打ち切りになるか、最後まで評定するか決まりますので、注意してください。

必須項目とは、学校ホームページとしての最低限要求される条件です。この条件が1項目でも満たされない場合は「評定打ち切り」となります。

01 最終更新日 [U3](必須項目)

この学校サイトの最終更新日は2003年10月以降ですか？

2003年10月以前.....	20.3%
2003年10月以降.....	79.7%

の場合は評定打ち切りとなります。最終更新日はふつうトップメニューが第1層の新着履歴に書いてあるのが普通ですが、どこにも記載がない場合は、「DB実績」を元に判断してください。

学校のホームページ担当者が異動になった場合など、かなり豊富な内容を持ちながら、実際には古いものばかりで放置されていることもあるので、注意が必要です。

DB実績とは、i-learn.jpが毎日更新状況を記録把握しており(アンテナといいます)、当該学校サイトが更新された最新日付が表示されています。ただし、DB実績は必ずしも正しいとは限りませんので、参考値として見てください。

02 学校概要(必須項目)

以下該当する場合にチェックします。

学校正式名称が記載されている [OP1]..... 84.5%

トップページのどこかに学校正式名称があることが条件です。具体的には、公立学校の場合市町村名の省略がある場合不可となります。私立学校や在外日本人学校等の場合フルネームは必ずしも必須ではありません。

所在地および電話連絡先が記載されている [OP2]..... 86.9%

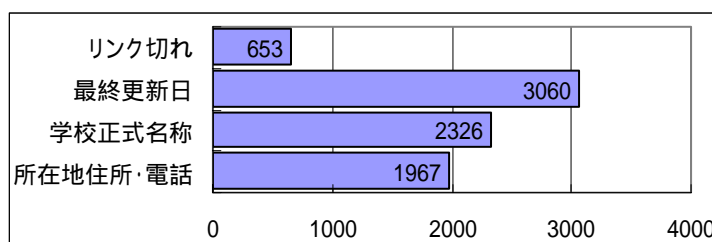
ホームページのどこかに所在地と電話連絡先の両方の記載があることが条件です。

[OP1][OP2]のいずれかがチェックされない場合は評定打ち切りとなります。[OP1]は特に公立学校に対して設けられた条件です。自治体の名称がない場合は所在地の記載がない場合が多く、ホームページからでは、どこにある学校なのか即座に判断特定できないことがあります。

4.2. 必須条件・評定打ち切りの確認

ここまで評定した時点で一度、評定打ち切り条件にひっかからないか確認をします。該当するのは、01[U3]の いずれかのチェック、もしくは、[OP1][OP2]のいずれかがチェックされない場合です。2003年度の統計上、この条件で約3分の1から2分の1が該当する計算になります。

2004年度の調査結果では、15039件のうち5880件(全体の39.1%)が評定打ち切りの対象となりました。以下に該当した条件のグラフ(延べ数)を示します。



4.3. #2 学校概要(03~19)の評定

#2のフォームは一般企業であれば、会社プロフィールに該当するような情報がメインです。形式的情報は古いものがあっても問題ありませんが、学校だより、行事予定などは情報更新頻度をはかる重要なキーとなります。

03 学校概要 1

以下該当する場合にチェックします。

メールアドレス [OP4] 74.3%

学校窓口となるメールアドレスです。直接アドレスが記載されていなくても、アイコンをクリックするとメール送信できる(mailto:)ようになっていたり、フォーム送信で直接学校側にメッセージが送れたりする場合は条件をみたすものとします。ちなみに、インターネット以外の電話やFAXでは代用不可です。毎日メールを処理するのが面倒という理由で、ページ上では公開されていないこともあります。

施設紹介・見取り図 [OP6] 25.5%

学校内施設の紹介があれば程度を問わずチェックします。防犯対策上、校内見取り図を掲載しない自治体もありますので、見取り図はなくてもかまいません。

校務分掌・組織体制 [OC5] 7.3%

分掌とは公式の校務役割分担のことで、[OC4]教職員名簿に合わせて記載されるケースもあります。もしくは、全体的な組織体制図でもかまいません。

アクセスマップ・交通手段 [OC6]	48.0%
学校までの地図や交通手段の案内を記したものです。セレモニーやイベントがある時などは地域外の人にも役立つ情報となります。	
教育関連機関へのリンク [OC8].....	26.8%
公立学校は自治体教育委員会や域内他学校、国立私立学校の場合は上位組織(大学・学校法人)や兄弟姉妹校へのリンクがあることを条件とします。	
校歌・校章 [OA4]	63.2%
校歌・校章のいずれかがあればチェックします。解説の程度は問いません。	

学校要覧にも記載されるような基本事項ばかりがまとめてあります。

04 学校概要 2

以下該当する場合にチェックします。

学校長氏名 [OP3].....	45.7%
学校サイトのどこにあってもかまいません(学校だより等も参考にしてください)。今年度であることがきちんと明記されていることが望ましいでしょう。	
ホームページ担当者・運用責任者 [OC1]	4.0%
学校サイトのどこにあってもかまいません。一部自治体を除き、運用者や文責が明記されているケースはまだ少数です。	
教職員名簿 [OC4]	8.5%
仕事上オフィシャルな立場と氏名を明らかにするのは社会の常識ですが、教職員名簿を公表する学校はごく一部に過ぎません。分掌の記載があるときは[OC5]もチェックします。イニシャルや匿名になっている場合は条件を満たしません。	
学校基礎統計 [OP5].....	17.6%
文部科学省は毎年4月に全国の学校基本調査を行っており、各学校は学級数、児童数、教職員数等を報告しています。これら3つの値が記載されている場合チェックします。ただし、教職員名簿 [OC4]がある場合には、教職員数は名簿から把握できるので、統計に数字記載がなくてもかまいません。	

03 に比べるとやや高度な事項がまとめてあります。学校要覧や学校だよりに記載されているケースがありますので、注意して調べてみてください。

05 HP 運営方針・制作運営体制 [OC2]

以下該当する場合にチェックします。

HP 運営方針 [OC2]..... 9.3%

ホームページの運営方針・ガイドライン・規程といったかたちで記されているケースが大半です。学校独自で作ったもの、あるいは自治体等で決めている場合があります。内容程度、分量は問いません。

HP 制作運用体制・組織 [OC2] 2.4%

ホームページ情報発信に直接関わる分担が組織として記されている場合チェックします。当然制作に複数人が関わっていることが前提となります。先の方針やガイドラインと一緒に書かれている場合もあります。

HP のガイドラインを掲載する学校は結構多いはずですが、現実的課題に沿った書き方になっているかどうかは別問題です(今回内容については問いません)。少なくとも数十人から数百人が所属する組織のホームページ情報発信なので、制作運用体制がきちんと敷かれていることが重要です。

06 学区・地域(校外)紹介 [OC7]

学校周辺の地域について紹介したページがありますか？その内容はどの程度詳細ですか？

なし 51.9%

あり(程度は問わない)..... 41.2%

資料的価値あり(おおむね A4 判2枚以上) 6.9%

地域紹介の形態はさまざまですが、児童学習成果として手作りの地域調べ資料を掲載している学校もあります。特に子供達の視点から綴られた資料は後輩達のよい教材になるでしょう。ただし、学校サイト外(自治体サイト)等へ単にリンク設定してあるような場合は、評価対象になりません。

資料的価値の判断基準としては、授業等で資料として利用できるくらいの分量目安として A4 判2枚程度としていますが、総量が少なくても内容が濃いものであれば につけていただいてもかまいません。

07 沿革・学校の歴史 [OA1/OA2]

沿革・学校の歴史に関するページがありますか？その内容はどの程度詳細ですか？

なし 29.6%

あり(程度は問わない)..... 64.7%

史料価値あり [OA2]..... 5.7%

学校ホームページに沿革が設けられているケースは比較的多いです。簡単な年表でも に該当します。 の条件はかなり厳しいものです。特に古い写真の複数掲載・丁寧な解説が付属し、教材史料価値が高いものを評価するものとします(がチェックされれば[OA2]の条件を一つ満たしたことになります)。

08 表彰・受賞記録等 [OA3]

学校への表彰受賞記録は一覧できるようにきちんと残されていますか？それは学校に対するものだけでなく、クラブや個人も対象にしたものですか？

なし	80.7%
あり(程度は問わない)	16.5%
クラブ部活や個人等の受賞も記載されている	2.8%

学校受賞の記録は沿革に記載されていることが多いので、受賞歴一覧が用意されていない場合は、沿革をチェックしてみてください。ちなみに、クラブ部活や個人等まで記録しているケースはあまり多くありません。

09 学校だより・学年学級通信 [SA5]

学校だより、または学年学級通信が掲載されていますか？

なし	64.3%
いずれか最新号が 2003 年 10 月以降	23.5%
過去分を含め計6回以上掲載	12.2%

上記に該当する広報物すべてが対象となります。PDF・Web 等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。特に、学校だよりのなかに、その他の項目に該当する内容記載があればチェックします。したがって、学校だよりさえしっかり残されていれば、他の項目でも点数を稼ぐことができるでしょう。

10 給食・図書・保健だより(情報) [SA6]

学校・学級以外で給食・図書・保健だより、または情報(給食日記など)が掲載されていますか？

なし	84.4%
いずれか最新号が 2003 年 10 月以降	12.4%
過去分を含め計6回以上掲載	3.2%

上記に該当する広報物すべてが対象となります。給食の日記や感想などがまとめられたものも含みます。PDF・Web 等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。

11 行事予定 [SP1]

学校の行事予定の記載がありますか？それはどの程度詳細ですか？

なし、あるいは月次の行事予定(詳細な日付なし)	59.9%
2004 年度で週次以上の行事予定	12.4%
2004 年度で日次の行事予定(詳細な日付があるもの)	27.7%

2004 年度の行事予定で、週次以上詳細であることが条件です。近々の予定が載っていることは必須ですが、1年分まるごと掲載されていなくても(月ごとの予定表でも)構いません。内容が空

の場合は不可です。

この項目は、実際に保護者がホームページを調べて役に立つかどうか、という観点で条件が設定されています。ちなみに、防犯上の懸念から詳細の行事予定掲載を制限している自治体もあります。

12 学校生活(手続等)

学校生活に関係する以下の連絡事項や手続が記載されていますか？

緊急時安全対策 [SP2]	6.0%
災害時・不審者侵入時の対処や連絡方法等です。サイト内の場所や程度は問いません。	
学校施設開放・学童保育等 [SP7].....	2.6%
地域住民を対象とした学校施設開放や学童保育(放課後の託児)に関する情報です。程度は問いません。	

自然災害時の登下校方法や緊急連絡の方法は、いざというときに即必要とされる情報ですから、ホームページに置かれていれば利便性が高い項目です。もっとも、探すのに苦労するような場所に置かれていたのでは意味がありません。

学校開放や学童保育は、自治体ホームページの側に記載されていることが多いのですが、今回は学校ホームページ側の記載をチェックします。

13 学校教育目標・経営理念・指導方針 [TP1]

学校のもっとも基本的な運営方針が明らかにされていますか？それらは、一般社会人にも分かりやすく解説されていますか？

なし	21.8%
あり(程度は問わない)	70.6%
詳細解説あり(おおむね A4 判 2 枚以上)	7.6%

学校教育目標は教育活動の根本であり、大半が記載しています(教育研究とは異なります)が、その程度は箇条書き程度や解説図を含むもの、あるいは文章解説がついたものまで様々です。

では、特に保護者向けに丁寧に解説してあるものを評価してください。

14 年間指導計画(シラバス) [TP2]

教育活動に関する年間指導計画が明らかにされていますか？それらはどの程度の教科・学年の範囲を網羅していますか？

なし	88.8%
あり(一部教科学年のみ)	8.8%
あり(全教科・学年を網羅)	2.4%

シラバスとは、教育活動に際して立案される年間指導計画のことを意味します。国の定める学

習指導要領に細かい規定があるので、もともと各学校で用意する必要のないものですが、近年は総合的な学習の時間をはじめとして、学校独自の教育研究やカリキュラム立案が行われるようになったため、事後の教育活動評価を正確に行うためにも、計画・目標の記述は重要視されるようになっていきます。

シラバスの条件としては、あとで評価が可能ないように、最低でも通年(1年分)の目標、全単元のタイトルと概要、配分時限数の記載が必要です。しかしながら、シラバスを準備するのは大変な時間と労力を要するので、現状で に該当する学校はほとんどないと見て良いでしょう(正直この数字は少々大きすぎる気がします)。

15 総授業時数・時間割日課表

教育活動の計画について、以下の項目が記載されていますか？

各教科年間総授業時数 [TP3].....	3.0%
学校概要やシラバス、学力評価報告書等に含まれるケースがあります。	
時間割・日課表 [TP4].....	8.1%
いわゆる一般的な時間割表です。学校概要に含まれることが多いようです。	

最近話題の学力評価では、教科ごとの計画授業時数と実施授業時数の対比(実施率)がひとつの目安となるため、かなり詳細な年間総授業時数[TP3]の掲載を指導している自治体があります。学力評価報告書の記載がある場合は、その内容にも注目してください。

16 教育評価 [TP6]

児童の学習活動を評価記述するための観点・基準・方法が細かく解説されていますか？

評価基準・評価方法の解説 [TP6].....	1.5%
児童の学習活動を評価するための基準や評価方法に関する解説です。程度は問いませんが、保護者向けに分かりやすく説明されていることが望ましいでしょう。	
通知表の解説 [TP6].....	0.5%
通知表には、自治体や学校によって独自の工夫がなされているものです。	
評価に関する解説のなかでも、特に通知表のねらいや情報の読み取り方、解釈、望ましい児童へのはたらきかけなどが具体的に記載されている場合チェックします。	

児童の学習活動評価は、テストや通知表など保護者にとって一番目に触れる機会が多いものですが、実際にはその観点や基準は教科や単元によって様々です。何がねらいとされているのか、評価は相対的な位置づけを示すのか、あるいは、目標到達の程度を示すのかなど、指標に込められた意味が丁寧に解説されているかチェックしてください。

17 FAQ・諸手続解説 [SP3]

学校生活や諸手続に関する疑問・質問に答えるための資料が用意されていますか？

なし	95.6%
あり(程度は問わない)	3.8%
おおむね掲載件数が 10 件以上	0.6%

学校生活・手続き等に関する質問回答集や解説が用意されているかどうかチェックします。FAQ にふさわしい情報量を備えているか判断してください。

FAQ(Frequently Asked Questions:よくある質問)は、インターネットならではの習慣です。もともとは、メーリングリストや掲示板で似たような質問に何度もつきあわされるのに辟易した管理者が、「先に FAQ を読んでから質問してねー」という意図で作ったものと言われています。いわば、ネット上の辞書あるいは知恵袋という位置付けです。

学校サイトの FAQ にも同じ意図があります。保護者にとってみれば、学校生活に関するちょっとした疑問は様々な場面で生じるものですが、わざわざ電話して聞くほどでもない、と遠慮してうやむやになってしまうような話は案外多いのではないのでしょうか？かゆいところに手が届くような資料がページにまとめられていれば、学校への理解や信用も高まるというものです。

18 学校財務 [OP7]

学校財務に関する計画や決算報告が掲載されていますか？

学校予算計画 [OP7]	0.9%
学校全体の予算計画に関する項目があればチェックします。程度は問いません。	
学校決算報告・行事事計報告 [OP7]	0.5%
学校全体、もしくは特定行事に関する決算報告があればチェックします。程度は問いません。	

学校は営利団体ではないので、会計報告の扱いも一般企業のそれとはまったく性格が異なります。財務状況の情報公開はまだ一般的ではありませんが、外部透明性を確保するうえで重要であると考えられ、これを推奨する自治体もあります。いずれの項目も情報の程度は問いません。

19 学校評価(内部・外部) [OP8]

学校評価に関する情報がありますか？

なし	94.3%
概要紹介あり	2.8%
結果報告・解説あり	2.9%

学校評価はおもに学校経営の健全性を評価し、透明性を高めるために行われるもので、現在各自治体で検討試行されています。評価主体は学校内部で行うものや外部の第三者が行うものなど様々で、評価される事項も学校成績(学力)のほか、生活指導全般、財務状況など多岐に渡ります。評価ポイントとしては、評価結果が具体的に公表報告されていれば、結果報告がなければ となります。具体例としては広島県内の小学校に多く記載例がありますので参考にしてください。

さい。

4.4. #3 学校概要(20～31)の評定

学校での活動は、おもに、正課の学習活動に関するものと、学級活動や課外活動に関するものの2つに分けて考えることができます。学校の方針により、それぞれの情報発信にかけるウェイトが異なり、それがそのままホームページの個性にも反映します。

正課の学習活動に関する項目では、保護者を対象としたものと、教職員・教育関係者を対象としたものがあること注意してください。教育研究はおもに教職員向けであり、研究大会や発表のためにかなり専門的な実践の知見や指導案・資料などが掲載されていることもあります。

20 学習活動 [TP7]

正課の学習活動に関する紹介記録がありますか？程度は問いません。

なし 39.9%

こちらを選択した場合は項目 21～23が省略されます。

あり(程度は問わない) 60.1%

こちらを選択した場合は項目 21～23でさらに詳細に評価します。

正課の学習活動とは、各教科学習(総合的な学習の時間を含む)全般のことを示します。教職員・教育関係者向けの教育研究に関する項目は含まれますが、遠足や運動会、修学旅行等の行事や、課外活動の委員会・児童会、クラブ部活動などは含まれません。

21 総合学習・プロジェクトページ等 [TC5/TA3+]

特定の学習単元、学習プロジェクト、学習活動をクローズアップして扱ったページがありますか？

それはどの程度の完成度ですか？

なし 61.9%

あり(程度不問) 33.9%

教材・資料として活用可 [TA3] 4.2%

学校ホームページの個性を決める重要なポイントとして、学校が特に力を入れて取り組んでいる活動やプロジェクトのページがあります。

稲作、桜島大根、綿花、ケナフといった栽培を通して全国比較をするプロジェクト、児童生徒の自作学習教材、地図作り、地域調べコンテストの作品等がそのままページとして残されているケース、地元学校と協力して、郷土学習を行うためのページなどさまざまです。積極的な学校では、これら様々な取り組みを通して、地道にコンテンツの蓄積を行っています。

完成度の高いページであれば、作成者が教師・児童を問わず、学習資料として十分活用可能であり、学校の学習記録としても価値があります。をつける基準としては、各都道府県自治体もしくは全国規模コンテストの入賞作品があることが目安になりますが、たとえ無冠でも、評定者の

判断で、十分資料的価値があると判断できるものは、チェックしてかまいません。

22 児童制作作品・レポート等 [TA1/TA3+/TC2+]

学習活動で制作した児童作品を積極的に紹介していますか？

なし	68.7%
あり(程度は問わない)	21.7%
各作品が完全に近い形で収録され、教材資料としての価値が高い[TA3+]	7.9%
に加え作品に関する本人や他者からの感想が合わせて掲載されている[TC2+]	1.7%

各学校サイトが児童作品に価値をおいているかどうかは、ページの作りを見ればはっきりと分かります。まったく載せていないか、形だけか、できるだけ完全な状態で収録されているか、のいずれかです。

子供たちの作品は数が多かったり、出来不出来があったりで扱いがたいへんですが、反面、地域調べ、学校の歴史調べ、あるいは各プロジェクトの観察記録やプレゼンテーションなど、そのまま学区紹介や沿革、プロジェクト成果として公表できるものもあり、実際に学校ホームページへの掲載を最終目標として取り組んでいる学校もあります。長期的に見れば、残された子供達のコンテンツは学校にとっても貴重でしょう。

教材・資料として長く残すことを前提にするなら、のなるべく完全に近い形で収録されていることが求められます。さらに、作品のみでなく 感想や意見が加えられていけば、一方通行で終わらない豊かな情報源となるでしょう。

23 学習活動

学習活動に関して次のような特徴がみられますか？

児童による編集構成 [TC1+]	6.9%
児童が複数ページを用いて作品構成している場合にチェックします。 (作品スライドショーを含む)	
教材・関連機関へのリンク [TC6]	9.2%
調べ学習用リンク集など、おもに児童が用いる外部教材資料へのリンクです。 程度や量は問いません。作成者は教師でも児童でもかまいません。	
学習活動や学校生活に対する児童の感想 [TC2+]	5.7%
児童自身の感想であることがはっきり分かることを条件とします。 低学年のページの場合、大人が子供の口ぶりで書いていることがよくあります。	

いずれも学習活動の情報発信をより豊かにする要素です。[TC1+]では、特に編集や構成の側面が重視されています。[TC6]は作成者を問わないので比較的該当例が多いと思われます。一般的には調べ学習リンクなどとタイトルされています。[TC2+]は、児童会やパソコンクラブが日記記録として残しているケースがあります。大人が書いている場合は、誰が書いたかはっきり分からな

いことが多いのですが、子供達が直接参加書き込みしている場合は、たいがいどこかにそれを示す記述があるものです。

24 教育研究

おもに教職員・教育関係者を対象とし、教職の技能向上と授業改善を目的としたコンテンツがありますか？ その内容はどの程度のものでしょうか？

研究計画 [TP5].....	16.0%
研究計画・企画案・概念図等の掲載(程度は問いません)	
研究発表告知・プログラム等 [TC3]	9.2%
自校開催の教育研究発表大会の告知やプログラムです。おもに外部教育関係者向けに書かれたものです。	
児童学習教材・資料 [TA3]	4.4%
先のプロジェクトや児童作品以外で、自作教材プログラムや資料、プリントなど研究成果を児童用の教材資料として公開している場合チェックします。	
教育関係者向けコンテンツ [TA4].....	4.9%
上記以外で、教育関係者を対象とした研修資料がある場合チェックします。具体的には教員向けの研修会講習会資料・教材、業務改善用のプログラムやテンプレートなどが該当します。ある程度の質量が要求されます。	

学校によっては、教育方針と教育研究方針が区別されていないことがあります。教育方針は学校全体の運営に関わるものですが、こちらは、先にも示したように教職の技能向上・授業改善が主たる目的です。

教育研究は、学校独自で自主的に行われることもあれば、文科省や自治体教育委員会の推薦や指定を受けて進められることもあります。研究発表大会の模擬授業は、いわば先生方の晴れ舞台であり、対外的に成果をアピールするもっとも一般的な方法です。24 の各項目では、このような教育研究の過程で生み出されたコンテンツを評価します。次の 25 にも関連項目があります。合わせて評価してください。

25 教育研究の成果 [TA2/TA4+]

教育研究の成果として記録・指導案・紀要等がきちんと報告されていますか？

資料の詳細さをチェックしてください。

なし	83.4%
研究成果概要あり(程度は問わない)	12.7%
研究記録・指導案・紀要等の文書あり [TA4+].....	3.9%

24 の項目で研究発表が行われる場合、告知・プログラムと一緒に の概要・紹介が掲載されていることは比較的多いのですが、 の具体的文書レベルとなるとかなり少数になります。ワード

や一太郎文書もしくは PDF などがよく使われますが、形式は問いません。

26 学校生活 [SP4/SA1]

20(正課の学習活動)以外の学校生活・行事に関する紹介記録がありますか？
それはどの程度詳細ですか？

なし	20.5%
こちらを選択した場合は項目 27～31 が省略されます。	
簡単な紹介あり(程度は問わない)	39.9%
～ を選択した場合は項目 27～31 でさらに詳しく評定します。	
記録あり(頻度は問わない)	31.1%
記録が月平均 2 回以上更新されている	6.8%
複数職員・児童が記録・発信活動に参加している	1.7%

学校生活のタイムリーな発信は学校ホームページの要です。この項目はそういう意味でも大変重要です。具体的記録は新着情報、ニュース、日記日誌などに書かれているケースが大半です。一箇所にまとめられていなくてもかまいません(評定するほうは大変ですが)。また、 の場合は同じ場所(ページ)に書かれていなくても構いません。トータルでどの程度の頻度で、どのくらいの人に関わっているか判断してください。

27 運動会・修学旅行等記録 [TC4]

保護者の注目度が高い行事に関する記録がありますか？

記録なし	49.8%
記録あり(程度は問わない)	44.4%
報告が緻密で様子がよく把握できる	5.7%

入学式、卒業式、運動会、学芸会、遠足、宿泊研修、修学旅行など、とくに保護者の注目度が高い行事を速報すると、学校ホームページに興味関心が集まります。学校によっては、特集のページを設けて子細にレポートしたり、モブログを応用してカメラ付携帯電話から直接ページの写真を書き換えたりしているケースもあります。

の基準としては、A4 判に換算して1ページ以上の分量があり、複数写真が掲載されていることを目安にしてください。

28 写真アルバム・日記 [F6]

学校生活の記録に写真が多数効果的に使われ、様子がよく分かるよう工夫されていますか？
(デジタル・イメージ特別賞の候補になります)

条件を満たさない	66.7%
条件を満たす	33.3%

デジタル・イメージ賞は、今年度の特別賞枠のひとつです。おもにデジタルカメラによる写真が学校ホームページの中で多数、効果的に扱われており、学校や地域の雰囲気をよく伝えていること、伝え方を工夫していることがポイントです。

判断は主観的ですが、できるなら、ふつうのスナップとはちょっと違う、特にセンスの良さを感じさせる学校をチェックしてください。

29 児童会委員会活動 [SP5/SA2]

児童会や委員会活動の紹介記録がありますか？

特に具体的記録にまで踏み込んでいるかチェックしてください。

なし	77.5%
紹介あり(程度は問わない)	18.7%
具体的活動記録あり [SA2] TC1 参照	3.8%

の児童会委員会活動を紹介するページは比較的多くみられますが、の活動記録となると、かなり数が限られます。とくに新着情報や学校ニュース、あるいは児童会のページなどで、児童会イベントの記録がなされていたり、委員会議事録などがきちんと残されていたりする場合にチェックします。

30 クラブ・課外活動 [SP6/SA3]

クラブ・課外活動の紹介記録がありますか？

特に具体的記録にまで踏み込んでいるかチェックしてください。

なし	69.9%
紹介あり(程度は問わない)	25.2%
具体的活動記録あり [SA3] TC1 参照	4.9%

29 の項目とほぼ同じ観点から、クラブや課外活動についての話題がどの程度詳細に扱われている判断してください。

31 児童によるページ構成 [TC1+]

委員会クラブ活動の一環として、サイトの一部編集構成を児童が担当していますか？

条件を満たさない	89.4%
条件を満たす	10.6%

パソコンクラブなどの児童が、学校サイトの一部コンテンツの構成を任されている場合にチェックしますが、この項目はかなりハードルが高いでしょう。

ポイントは学習活動ではなく、委員会クラブ活動の一環であることが条件となっているところで、先に学習活動の項目で扱った児童作品・編集構成(学習成果)はここに含まれません。注意してください。

4.5. #4 PTA・機能(32～41)の評定

このフォームの前半には、教員・児童以外の学校関係者を幅広く対象とした情報がまとめられています。学校側がどこまでを利用者として考えているか、一番差がはっきりと出てくる項目群といえるでしょう。

フォーム後半はおもにホームページの利便性を向上させるための様々な機能についての項目がまとめてあります。

32 卒業生・同窓会情報

卒業生を対象としたページがありますか？

卒業生対象の情報・ページ [SC5].....	2.8%
懐かしい母校を訪ねてくる卒業生に対してケアしていますか？程度は問いません。	
校内卒業作品・記念碑等の紹介 [OA6].....	1.5%
校内に残された記念作品は大切にされていますか？紹介があれば程度は問いません。	

私立学校や高等学校を除くと、学校側の同窓会に対する意識はさほど高くありません。しかし、遠くに離れて暮らす卒業生にとって母校の今の姿は何かと気になるものです。卒業生を対象とする方法といえば、ストレートに卒業生・同窓会情報を掲載する方法や、[OA6]のように具体的なモノにこだわるアプローチがあります。学校の中には、実は卒業作品や記念贈呈のたぐいの品は多いので、歴史の長い学校なら、そこかしこに思い出の品が残っていることでしょう。

33 PTA 活動情報

PTA 活動に関する紹介記録がありますか？内容の充実度をチェックしてください。

PTA 紹介(程度は問わない) [SC3]	14.9%
組織構成または会計報告 [SC3]	4.5%
活動記録報告 [SA4]	9.8%

PTA 活動は学校サイトとまったく別にページを設けていることがあります。学校側から外部ヘリンクが設定されている場合、その内容も評定にプラスして考えます。

[SC3]紹介レベルなら比較的クリアする学校が多いのですが、組織構成・会計報告・活動記録報告になると、なかなか難しいものがあります。

34 ボランティア・地域連携 [SC4/SC6]

ボランティアや地域連携活動に関する紹介記録がありますか？

なし	77.7%
紹介あり(程度は問わない)	16.8%
活動記録報告あり [SC6].....	5.5%

総合的な学習の時間などで外部講師をお願いしたり、外へ取材に行ったりと、最近の学校では

以前にも増して保護者・地域との連携を強化する傾向があります。こういった活動は長期的な視野に立った関係構築が必要で、にわかに実現できるものではありません。活動の趣旨説明や記録報告は、学校側の姿勢や実績をアピールするうえでも説得力があります。

35 PTA・ボランティア・地域連携

PTA やボランティア・地域連携に関して、以下の具体的項目がありますか？

PTA・地域活動機関へのリンク [SC7]	5.4%
関連するボランティアサークル、NPO のほか、スポーツのジュニアチーム等を含みます。	
保護者や支援者の HP 制作参加 [SC1]	1.6%
受託契約業者の場合を除きます。	

[SC7]は、学校を拠点とした様々な活動団体へのリンクです。PTA が別にページを設けている場合、スポーツチーム、おやじの会など様々なケースがあります。これらは間接的に学校の存在価値を高めてくれるものです。

[SC1]の該当例は多くありませんが、PTA ページなど部分的に参加しているケースがあります。業者として業務を受託している場合は含みません。

36 教職員からの感想・コラムエッセイ[OC3/OA5]

学習評価やフォーマルな報告事項以外で、教職員からの教育活動や学校生活に関する感想がありますか？コラム等にまとめられている場合は高く評価します。

なし	93.1%
紹介あり(程度は問わない)	4.9%
コラムやエッセイとして掲載 [OA5]	2.0%

オフィシャルな紹介・告知・評価・報告などとは別に、教職員の側から教育活動全般に関する感想やコラムエッセイが掲載されている場合、組織活動としての学校とは違った側面をアピールすることができます。学校だよりには学校長の文章が掲載されていることが多いので、比較的該当例は多いでしょう。教員が持ち回りで毎日ひとことを書き込んでいる学校もあります。

37 保護者・利用者からの意見感想[SC2]

学校全般やホームページに関して、保護者や一般利用者からの感想がありますか？
多様な意見が掲載されていることが重要です。

なし	95.9%
あり(程度は問わない)	2.8%
アンケート結果の掲載もしくは 10 件以上のコメント	1.3%

利用者からのフィードバックは、学校ホームページのデザインや運営の方針を決めてゆくうえで貴重な参考意見となります。定期的に保護者にアンケートをとって、その結果を公表している学

校もあります。

38 学校独自のコンテンツ [OA7]

これまでの評定結果をもとに判断すると、この学校のホームページにはオリジナリティの高いコンテンツがあるといえますか？

全体量が少ない・表面的・ありきたり.....	51.3%
独自性への努力は認められる.....	38.0%
他学校や一般利用者にとって有益.....	8.8%
学校ホームページの目標になるほど完成度が高い.....	1.9%

[計算]をクリックすると該当項目を集計します。目安としては全 14 項目中5以上クリアしていれば ~ の検討対象となります。構成はありふれていても、それぞれの内容に学校独自の取り組みが反映されていれば評価してください。

39 平易な表現・分かりやすい解説 [F1]

おもに保護者を対象とし、平易な表現や解説、丁寧な文体が心がけられていますか？

条件を満たさない.....	37.5%
条件を満たす.....	62.5%

内容が少ないページは「条件を満たす」と判断されやすく、内容が豊富になるにつれて「条件を満たさない」と判断されやすくなります。しかしながら、見た目のすっきり感と、文章の平易さ丁寧さとは本来関係がないものです。とくに内容が少ない場合は、箇条書きでぶっきらぼうな書き方になっていないか。きちんと利用者のことを意識しているかについてチェックしてください。

40 年齢に応じた配慮 [F3]

小学生低学年が使うことを前提に、一部ルビやひらがな表記を行ったり、ひらがな変換表示機能を備えたりしていますか？

条件を満たさない.....	75.3%
条件を満たす.....	24.7%

小学校低学年を対象とした学年ページなどは、一部ひらがな書きをしている学校があります。また、Kids'Goo のひらがな変換表示機能を利用することで、漢字表記をひらがなに切り替えて表示させることもでき、これを機能として実装する学校があります。

41 サイト機能

学校サイトの機能として、以下のものがありますか？

この場合は、変更点を評定に反映させる必要があります(出来る範囲で結構です)。

評定者の項目見落としや勘違いで、評点が極端に甘い(もしくは辛い)。

この場合は、評定の精度について双方で調整検討する必要があります。

右図のケースでは、特に3項目で大きく点数の差があることが分かります。

4.8. 評定後の学校ページ側の変化検出(参考)

評定を行った後に学校サイトが更新されたり、i-learn.jp の学校情報に変化したりする場合、一覧の学校名の後ろに★マークが付きます。このマークがついている場合、トップが更新された、学校サイトの URL が変更になった、学校側からの情報書き込みがあった、など、評定結果に影響を及ぼす重要な変化が起こっている可能性がありますので、一応チェックが必要です。なお、頻繁に更新している学校は★マークが常につきっぱなしになります。

4.9. 個別評定差の把握(参考)

点数差の大きい某小学校のケースをみてみます。このケースは、内容が豊富であるにも関わらず、昨年度はまったく更新がなされていない学校で、「評定打ち切り」に当たります。

ペア評定者の評定結果は表の右側、さらに右側には昨年度の評定結果の参考値が表示されています。さらに一番下の表では、全項目の得点が表示されます。自分が左側、ペア評定者が右側になります。

この結果を比較してみると、ペア評定者は最終更新日が2003年9月以降あったものとして、残りの項目をすべて評定していることが想定されます。

この場合、該当する学校ページの最終更新日が必須条件に引っかかるか、もう一度確認したり、伝言機能を利用してペア評定者との調整を行う必要があります。



5. 調査結果と傾向

こちらに提供する情報は、傾向把握のための仮の加点条件のもとで割り出した数値です。
正式なデータ分析結果は別途後日発表します。

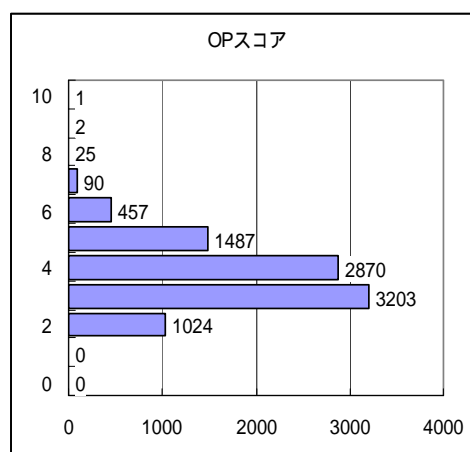
5.1. 各セルの得点傾向

OP (組織・広報)セルの得点傾向					
OP:組織・広報 平均 3.73 標準偏差 1.11					
OP1	学校正式名称	12713	2026	04.5%	16%
OP2	所在地および電話番号	19072	1967	96.0%	13.1%
OP3	学校名称	4186	4979	45.7%	54.3%
OP4	Eメールアドレス	6686	2959	74.3%	25.7%
OP5	学校基礎統計	1695	7544	17.0%	83.0%
OP6	施設紹介	2993	6826	25.1%	74.9%
OP7	学校予算計画	83	9076		99.1%
OP7	学校決算報告(行事会計報告)	44	8115		98.9%
OP8	学校評価(内部・外部)	267	253		94.3%

OP 項目は正式名称・所在地・メールアドレスなど、基本的な項目な項目が多いため、10のセルのうち最も平均値が高くなっています。

ちなみに、右側の OP スコア得点分布の母数は9159ですが(0~1点がないのは評定打ち切り分が含まれないからです)、詳細項目のグラフのうち OP1・OP2の母数は必須項目の評定打ち切り分を含めた15039となっています。

一方、学校会計関連、学校評価については、一部自治体で掲載への指導がみられますが、全体の比率からみると、条件を満たす学校はまだわずかです。



OC (組織・協働) セルの得点傾向

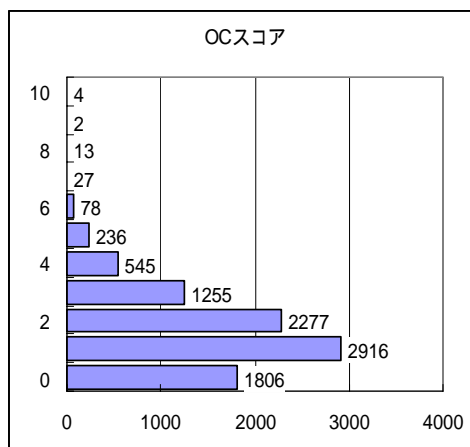
OC: 組織・協働 平均 1.68 標準偏差 1.38

項目	件数	点数	平均	標準偏差
OC1 HP運用者・運用責任者	388	8701	22.43	0.96
OC2 HP運用方針	854	8006	9.38	0.78
OC3 HP制作運用体制・組織	217	8942	41.00	0.70
OC4 教職員からの感想・コラム・エッセイ	181	450	2.49	0.35
OC5 教職員名簿	782	8371	10.71	0.75
OC6 校務分掌・経理体制	687	8492	12.36	0.78
OC7 アクセスマップ・交通手段	438	4763	10.87	0.70
OC8 学区・地域(校外)紹介	831	3733	4.49	0.77
OC9 教育関係機関へのリンク	244	876	3.59	0.38

OC 項目は、特に組織内の体制・参加協働についての項目がまとめられています。

アクセスマップ、学区・地域紹介はポピュラーな項目ゆえ5割弱がすでに備えています。ホームページ運用方針・担当者・運用体制、教職員名簿と校務分掌の項目はいずれも10%を切っています。

HP 運用方針、担当者、運用体制は、大規模な組織ホームページになるほど重要度が高くなりますので、もう少し該当例を増やしたいところです。ちなみに熊本県では、HP 運用担当者・責任者の掲示を行うよう指導しているようです。



OA (組織・蓄積) セルの得点傾向

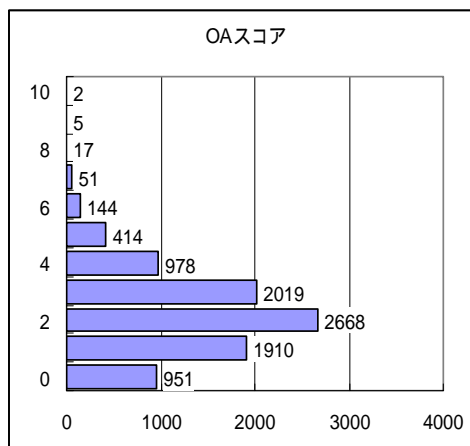
OA: 組織・蓄積 平均 2.26 標準偏差 1.45

項目	件数	点数	平均	標準偏差
OA14 沿革・年報の歴史	811	8000	24.78	0.98
OA15 記念関係沿革(年報等)	517	8642	16.71	0.84
OA16 表彰・賞状記録等	265	1587	5.99	0.78
OA17 校歌・校章	5787	3872	6.69	0.88
OA18 広報品(エッセイ等)	181	8978	49.60	0.88
OA19 校内外関係品・記念品等の紹介	136	8033	59.07	0.88
OA17 学校特色のページ	173	838	4.84	0.38

OA 項目は、やや固めの情報ばかりですが、組織としての情報蓄積を扱った項目で構成されています。

沿革・校歌校章といった基本的項目とそれ以外の項目とでは得点傾向に大きな差がみられることがわかります。特に OA2 や OA5 は量質的に高水準のものが求められるので、簡単には実現できません。

学校独自のコンテンツは、ややおまけ的性格のある項目ですが、約半数が独自性を志向していることがわかります。今後の展開が非常に楽しみです。



TP(教育・広報)セルの得点傾向

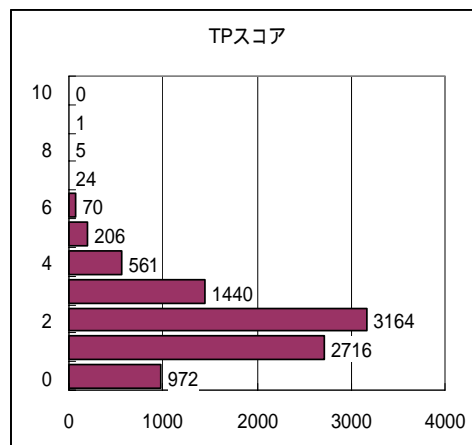
TP:教育・広報.....平均 1.89 標準偏差 1.24

項目	件数	平均	標準偏差	達成率	目標率
TP1 学校教育目標・経営理念・指導方針	491	6489	7994	75.5%	70.0%
TP2 年間指導計画(シラバス)	216	699	8132	81.0%	80.0%
TP3 各教科年間総授業時数	277	8862		97.0%	
TP4 時間割・日課表	745	8414		81.5%	81.0%
TP5 研究計画	1485	7594		76.0%	84.0%
TP6 評価基準・評価方法の解説	135	9024		96.0%	
TP7 通知表の解説	43	9116		96.0%	
TP7 学習活動	953	3956		68.1%	59.0%

教育目標については約8割がなんらかの記述を行い、学習活動も6割が紹介していますが、より踏み込んだ項目になると著しく通過率が低くなります。

教育活動に関わる項目でも、教育姿勢、計画、評価方法等は、(労力は別問題として)比較的文書化が容易な領域なので、ホームページのボリュームと説得力を増すには、手がけやすい部分でもあります。

年間指導計画(シラバス)や年間総授業時数は、学校評価のうち、学力維持向上の領域で当初の計画と実際実施時数の比較を行うために必要です。



TC(教育・協働)セルの得点傾向

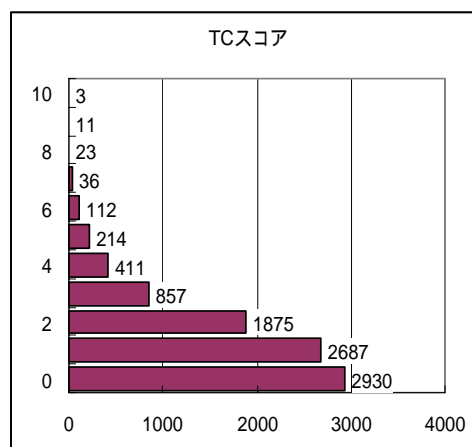
TC:教育・協働.....平均 1.41 標準偏差 1.48

項目	件数	平均	標準偏差	達成率	目標率
TC1 児童によるページ制作(児童会委員会等)	589	8191		70.0%	89.0%
TC2 児童による編集構成(学芸活動)	696	8629		65.0%	80.0%
TC3 学習学校生活に対する児童の感想	524	8636		81.0%	84.0%
TC3 研究発表資料・プログラム等	640	8314		81.0%	86.0%
TC4 運動会・学年旅行等記録	526	4030	4563	44.4%	49.0%
TC5 社会学習・プロジェクト学習	376	3187	5674	32.0%	61.0%
TC6 教材・設備等関係へのリンク	843	8316		81.0%	80.0%

Cには協働と拠点双方の意義があります。教育活動をきっかけとして様々な人々の行き交うポイントを作るためのセルです。

TC4は蓄積としての意味合いも大きいのですが、関心を集めやすい項目ということでこちらに含めました。また、総合的な学習の時間やプロジェクト学習のページは、学校外の交流相手を見つけるには、良い旗印になるでしょう。

TC1・2などは活動成果に厚みを加える意味でも非常に重要です。



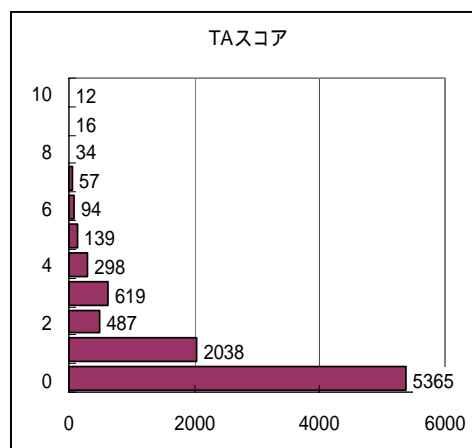
TA(教育・蓄積)セルの得点傾向

TA:教育・蓄積.....平均 0.90 標準偏差 1.52

項目	件数	平均	標準偏差	スコア
TA1+ 児童制作作品・レポート等	159	726	1567	6208
TA2+ 教育研究の成果	359	1163	7643	
TA3+ 児童学習教材・資料			487	6762
TA4+ 児童学習教材・資料の組合せ等			376	6789
TA5+ 児童学習教材・資料の児童作品			684	6275
TA6+ 教育関係者向けコンテンツ			451	6708
TA7+ 教育関係者向けコンテンツの教育研究			383	6836

TA セルは主に児童教材・児童作品・研究成果の3点から配点されます。保護者に最も受けが良いのはTA1 児童作品ですが、数が多くなると扱いが大変になるという課題もあります。

学習成果の振り返りやコンテンツの再利用といった観点から考えれば、学校ホームページが最も個性を發揮しやすく、将来的にも高い意義が認められる部分なので、もう少し平均点を伸ばしたいところです。



SP(学校生活・広報)セルの得点傾向

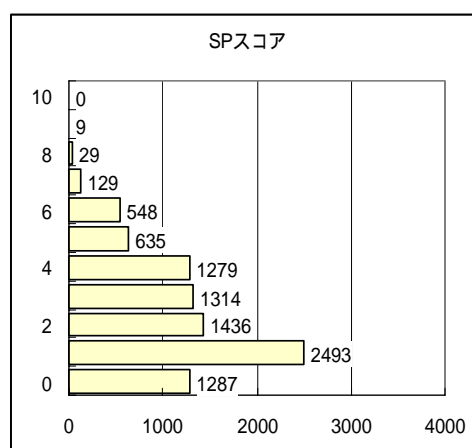
SP:学校生活・広報.....平均 2.41 標準偏差 1.86

項目	件数	平均	標準偏差	スコア
SP1 行事予定	2541		1132	5408
SP2 緊急時安全対策			549	6611
SP3 FAQ・随時相談			51	382
SP4 学校生活	107	623	2946	3680
SP5+ 児童会委員会活動			347	1716
SP6+ クラブ・課外活動			461	2270
SP7 学校施設開放・学童保育等			242	8911

SPセルは学校生活全般の広報要素です。最も大きな要素は学校生活紹介と行事予定になりますが、いずれも肖像権や防犯安全等の課題がシビアに絡みやすいという難しさがあります。

形式的に要素をそろえる以上に、加点条件では更新頻度や複数の関与が入ってきますので、なかなか高スコアにならないでしょう。

ちなみに、昨年度緊急時の安全対策を項目に加えたことから、今年度は比較的良好に目にするようになりました(6%)。



学校施設開放・学童保育等は実施学校が限られることと、自治体役所で扱っていることが多いことから該当例は少ないようです。

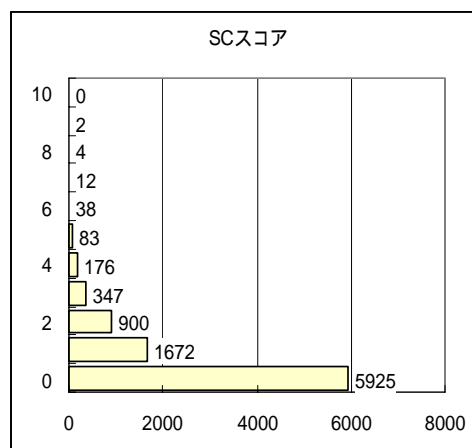
SC(学校生活・協働)セルの得点傾向

SC: 学校生活・協働 平均 0.65 標準偏差 1.13

SC1	保護者や自治会のHP制作参加	144	9015	33.4%
SC2	保護者・教員からの意見感想	122	250	85.0%
SC3	PTA紹介	1367	7792	14.0%
SC3	PTA協賛種別または基金計報告	415	8744	95.0%
SC4	ボランティア・地域連携	507	1540	71.1%
SC5	卒業生対象の情報ページ	280	8898	97.2%
SC7	PTA・地域活動関係へのリンク	434	8892	94.0%

このセルは学校生活の活動に PTA やボランティア等がどの程度関わっているかを示すものです。

学校側の都合だけで成立するものではないので、どの項目も低めの数値になっていますが、ボランティア・地域連携で2割強が得点していることから、今後の伸びが期待されます。



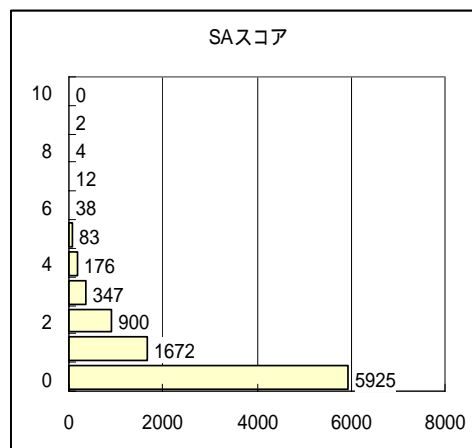
SA(学校生活・蓄積)セルの得点傾向

SA: 学校生活・蓄積 平均 1.35 標準偏差 1.55

SA1	(学校ニュース・出来事記録)	157	425	2949	8836	11.0%	31.1%	92.4%
SA2	(児童会委員会活動記録)		347		8812			95.2%
SA3	(クラブ・課外活動記録)		451		6708			95.1%
SA4	PTA活動記録報告		890		8200	9.0%		90.2%
SA5	学校だより・学年学級通信		1116		2154	58.9%	23.5%	84.3%
SA6	給食・図書・保健だより(録)		206		1130	77.0%		84.4%

SA1～3 は学校生活の紹介より踏み込んだ内容に対して加点されるもので、記録的価値があることが条件となっています。

学校だより・学年学級通信、給食・図書・保健だよりなどの印刷配布物は、そもそも学校の重要なトピックを短くまとめたものですから、ホームページにまとめるにあたって、原稿を新たに書き起こす必要がなく、長期的視点からみれば資料的価値も高いものですが、まだ3割強にとどまっています。



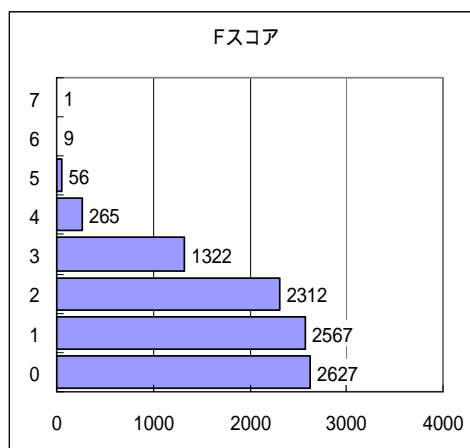
F (機能) セルの得点傾向

F:機能 平均 1.37 標準偏差 1.17

項目	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年
F1 中黒な表記・分かりやすい表記	5726	3438	62.7%	37.5%	92.3%	7.7%
F2 サイト内検索・サイトマップ	795	6454	24.7%	75.3%	97.4%	2.6%
F3 年齢に応じた配慮	2280	6896	33.3%	66.7%	94.5%	5.5%
F4 携帯電話用ページ	238	8921				
F5 メールマガジン	76	8089				
F6 写真アルバム・日記	3083	6106				
F7 両方向性の確保	580	8658				

F 項目は比較的得点しやすい F1、F3、F6 とそれ以外の項目で傾向が分かれました。F3 年齢に応じた配慮は、昨年よりも該当例が増えています。

今年度追加されたのは、携帯電話用ページですが、該当例は 2.6%でした。



5.2. セル平均の比較と軸別の傾向

10セルすべての平均を示したのが右図です。これによると、OP(組織・広報)がもっとも平均スコアが高く、TA(教育・蓄積)、SC(学校生活・協働)は低いことが分かります。

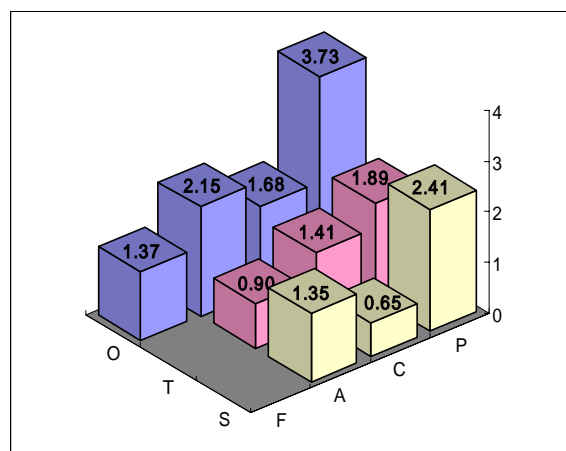
OP は比較的基本的事項が多いことから、高スコアに結びついたものと考えられます。

一方、軸別に平均を取り直すと、縦軸の目的(PCA)では、P:広報(平均 8.030 標準偏差 3.157)、C:協働(平均 3.752 標準偏差 3.056)、A:蓄積(平均 4.512 標準偏差 3.516)と

なっています。OP セルに引っ張られて特に P 項目(広報)が高くなっていることから、学校ホームページのバランスとしては、広報に偏りがあることが分かります。

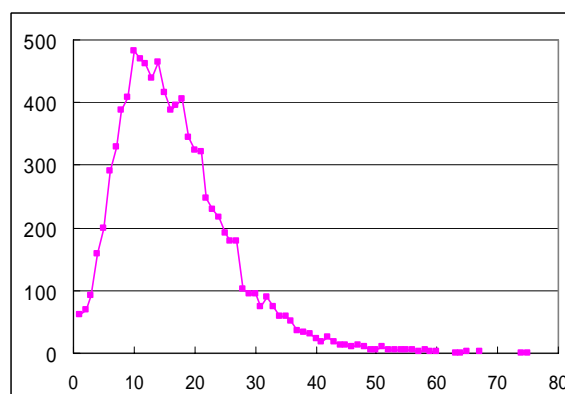
横軸の適用範囲(OTS)では、O:組織(平均 7.675 標準偏差 3.044)、T:教育活動(平均 4.202 標準偏差 3.472)、S:学校生活(平均 4.417 標準偏差 3.591)となり、O 項目(組織)が特に高め、S 項目(学校生活)・T 項目(教育活動)は低めの平均になっています。

つまり、コンテンツの充実は組織広報を中心としたものから、協働・蓄積へ、さらに、学校生活や教育活動への適用範囲の拡大がなされるものと考えられます。



5.3. 総合計スコアの傾向

右図は評定打ち切りにならなかった9159件の総合計スコアの分布を示したものです。総合計スコアの理論的な分布レンジは2~97(必須条件2点が含まれるため)ですが、全体の平均は17.665(標準偏差9.158)、最高スコアは76点でした。低めのスコアに分布が偏る傾向は昨年と同様です。



(詳細解説おわり)